
2026年3月期 第2四半期 決算説明資料

複合化技術で未来をささえる

プライム市場 5121
藤倉コンポジット株式会社

2025年12月5日

代表取締役社長執行役員 森田 健司



FUJIKURA COMPOSITES



目次

- I . 2026年3月期 第2四半期決算**
- II . 2026年3月期業績予想**
- III . 足元の活動と今後の方針**
- IV . Appendix**

I . 2026年3月期 第2四半期決算

■ 連結業績

(単位：百万円)

	2025年3月期 2Q実績	2026年3月期 2Q実績	前年同期比 (%)
売上高	19,667	20,230	+2.9%
営業利益	2,250	2,684	+19.3%
営業利益率 (%)	11.4%	13.3%	+1.9pt
中間純利益	2,140	2,199	+2.7%

■ 決算のポイント

■ 取り巻く環境

- ・雇用・所得環境の改善や各種政策の効果により緩やかな回復基調を維持
- ・一方、米国による関税政策の影響、不安定な国際情勢、物価高の継続等、先行きが不透明な状況

■ 売上面

- ・自動車関連部品および住宅設備関連の受注回復
- ・半導体および液晶市場の設備投資は堅調に推移
- ・新商品『SPEEDER NX GOLD』、新モデル『MCI』ともに好調

■ 営業利益面

- ・販売価格の改善や固定費増加の抑制
- ・ゴルフシャフトにおいて自社ブランド品の構成比率がアップ

(単位：百万円)

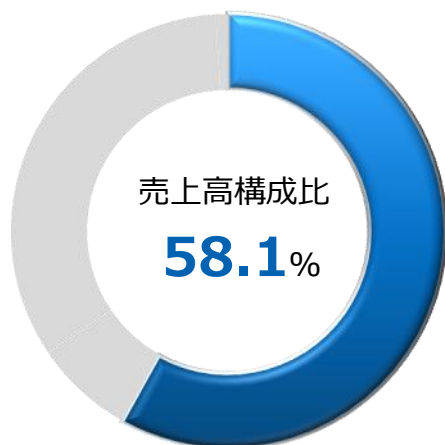
	2025年3月期 2Q実績		2026年3月期 2Q実績		前年同期比		2026年3月期 2Q公表予想		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	金額	構成比	達成率
売上高	19,667	100.0%	20,230	100.0%	563	+2.9%	19,900	100.0%	101.7%
営業利益	2,250	11.4%	2,684	13.3%	434	+19.3%	2,300	11.6%	116.7%
経常利益	2,510	12.8%	2,892	14.3%	381	+15.2%	2,500	12.6%	115.7%
中間純利益	2,140	10.9%	2,199	10.9%	59	+2.7%	1,800	9.0%	122.2%
1株当たり 中間純利益 (円)	106.65	—	114.77	—	+8.12		91.77	—	125.1%
為替 (円)									
USD	152.36		148.41		▲3.95		145.00		
RMB	21.06		20.44		▲0.62		20.00		

売上構成 - 主要セグメント

産業用資材

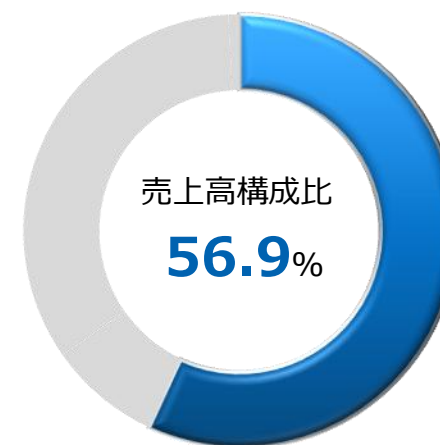
2025年3月期 2Q

売上高 **11,423** 百万円



2026年3月期 2Q

売上高 **11,507** 百万円



リング/パッキン・ガスケット



複合成形部品



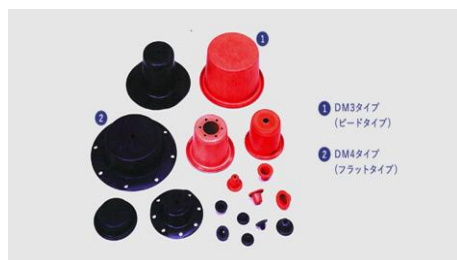
逆止弁 アンブレラ ヲックビル



レギュレータ



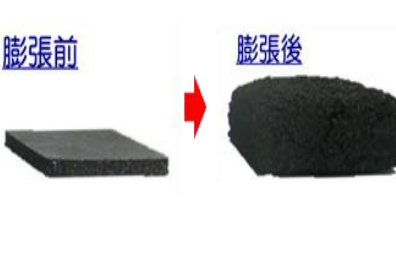
輸液回路用逆止弁



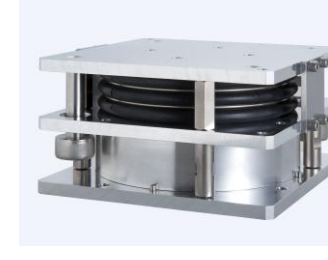
BFダイヤフラム



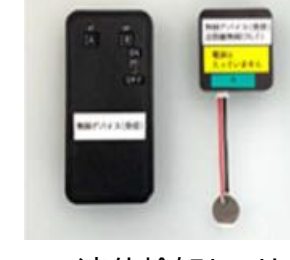
水ガバナ



熱膨張ゴム



除振台



液体検知センサ

売上構成 - 主要セグメント

引布加工品

2025年3月期 2Q

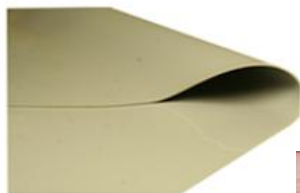
売上高 **1,466** 百万円

売上高構成比
7.5%

2026年3月期 2Q

売上高 **1,700** 百万円

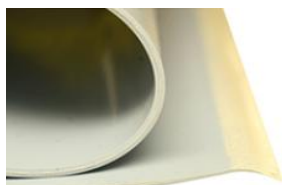
売上高構成比
8.4%



片面ゴム布



両面異種ゴム布



両面ゴム布



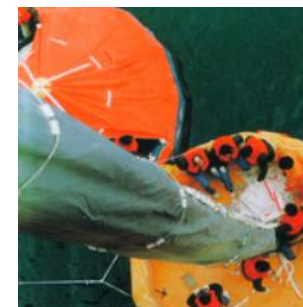
膨脹式救命いかだ



膨脹式救命浮器



小型船舶用膨脹式救命いかだ



シューター垂直降下式乗込装置



航空機用救命ボート



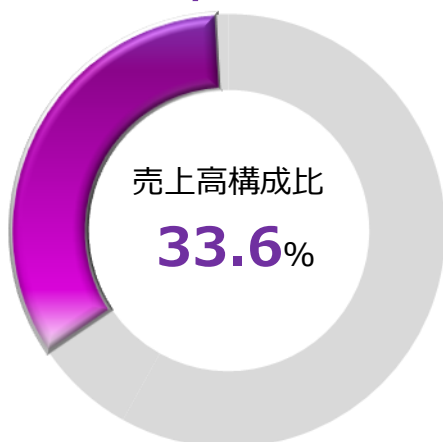
CO2回収バッグ

売上構成 - 主要セグメント

スポーツ用品

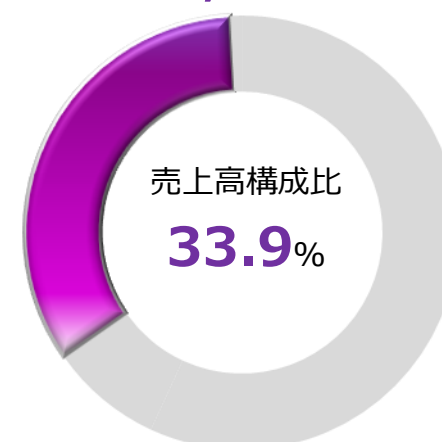
2025年3月期 2Q

売上高 **6,607** 百万円



2026年3月期 2Q

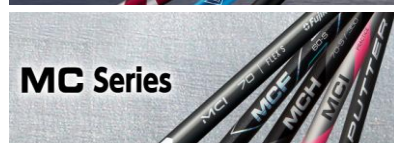
売上高 **6,848** 百万円



SPEEDER NX GOLD



MC Series



TRAVIL



NEW MCI



C1-02S



C1-DL MID



Vita Amo



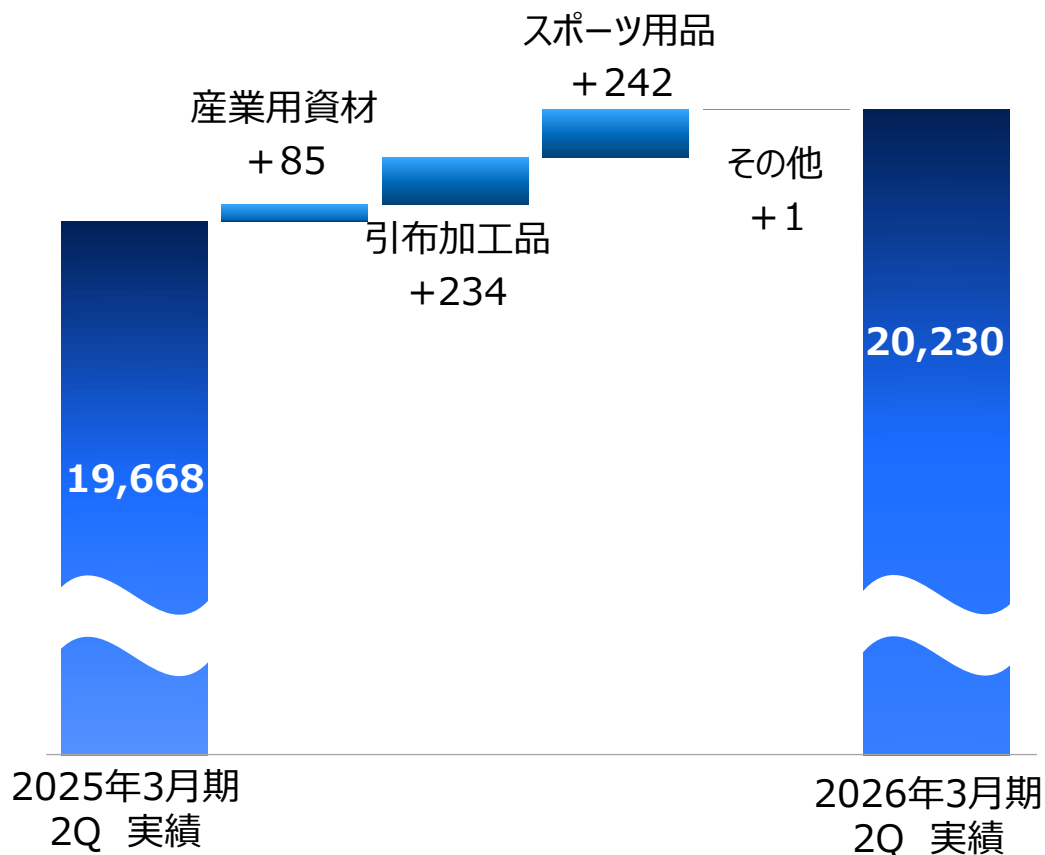
GK-ALT HI

売上高・営業利益 増減

2025年3月期 2Q実績 ⇒ 2026年3月期 2Q実績

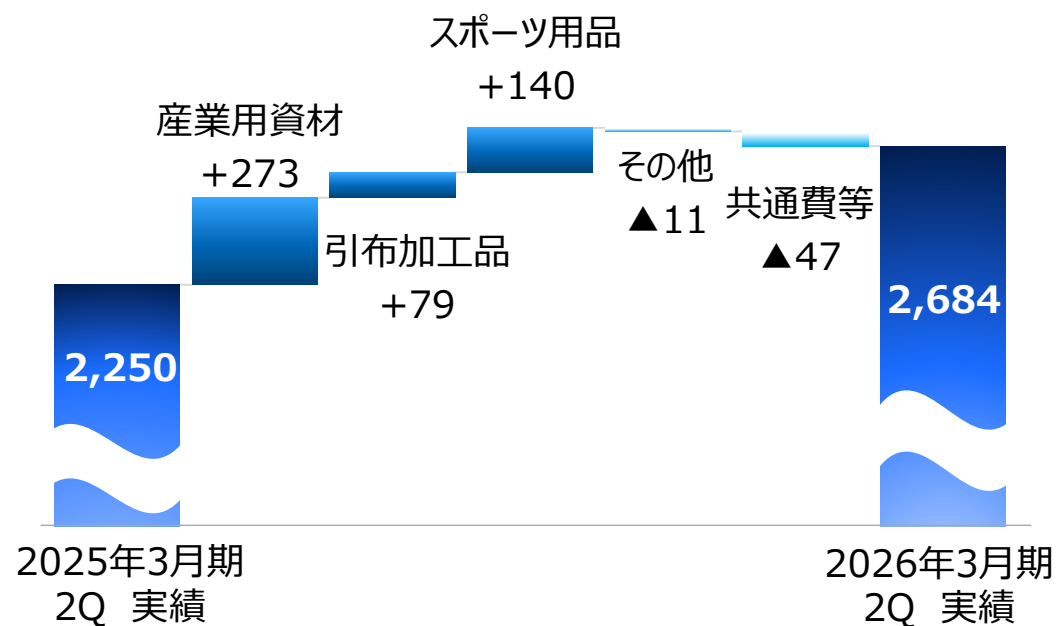
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



前年同期比
+ **562**百万円



前年同期比
+ **434**百万円

主要セグメント別 2025年3月期 2Q実績 ⇒ 2026年3月期 2Q実績

(単位：百万円)

産業用資材



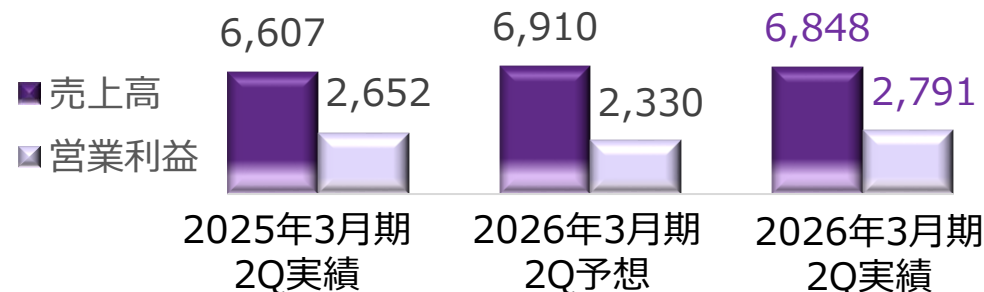
	2025年3月期 2Q実績	2026年3月期 2Q実績	前年同期比 (%)
売上高	11,423	11,507	+0.7%
営業利益	▲4	268	-
営業利益率	-	2.3%	-

引布加工品



	2025年3月期 2Q実績	2026年3月期 2Q実績	前年同期比 (%)
売上高	1,466	1,700	+16.0%
営業利益	▲63	15	-
営業利益率	-	0.9%	-

スポーツ用品



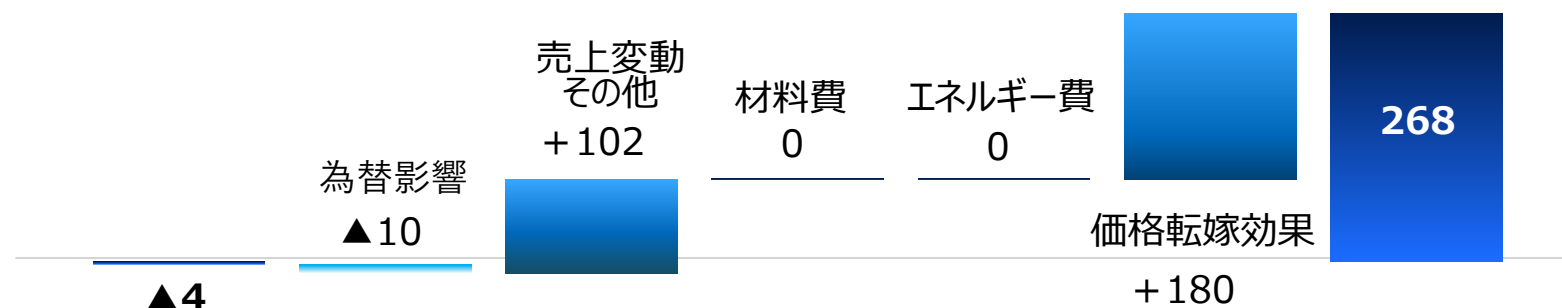
	2025年3月期 2Q実績	2026年3月期 2Q実績	前年同期比 (%)
売上高	6,607	6,848	+3.7%
営業利益	2,652	2,791	+5.2%
営業利益率	37.2%	40.8%	+3.6pt

主要セグメント別 営業利益の増減要因分析

産業用資材

前年同期実績比

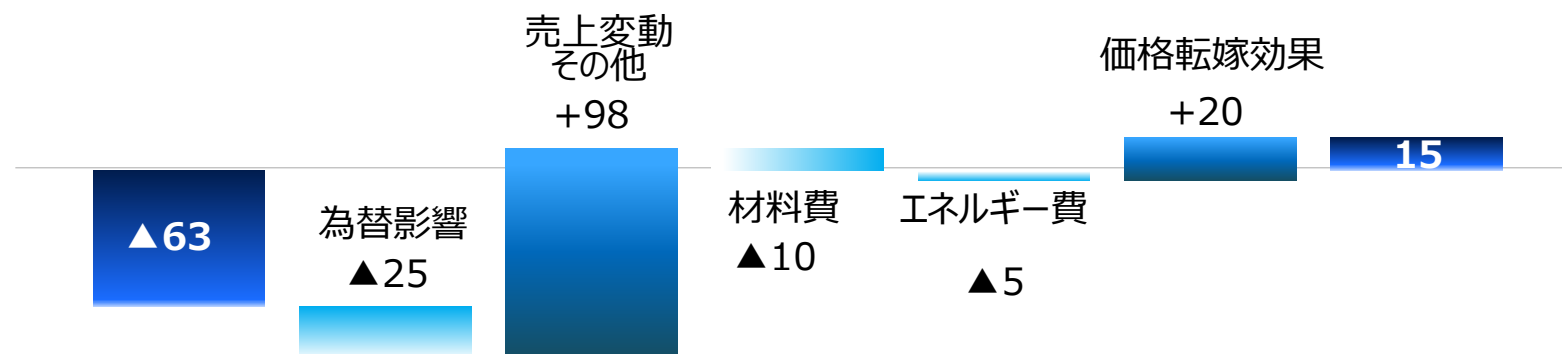
 **+272 百万円**



引布加工品

前年同期実績比

 **+78 百万円**



スポーツ用品

前年同期実績比

 **+139 百万円**



売上高 セグメント別・地域別マトリクス

(単位：百万円)

	売上高												営業利益	
	日本								海外		合計			
			北米		アジア		他							
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
産業用資材	7,052	34.9%	926	4.6%	2,935	14.5%	594	2.9%	4,455	22.0%	11,507	56.9%	268	8.7%
前年同期 増減率	+9.6%		▲9.3%		▲11.0%		▲11.6%		▲10.7%		+0.7%		-	
引布加工品	1,278	6.3%	9	0.0%	365	1.8%	48	0.2%	422	2.1%	1,700	8.4%	15	0.5%
前年同期 増減率	+24.3%		+57.6%		▲1.3%		▲22.8%		▲3.5%		+16.0%		-	
スポーツ用品	2,709	13.4%	3,750	18.5%	388	1.9%	-	-	4,139	20.5%	6,848	33.9%	2,791	90.4%
前年同期 増減率	▲1.5%		14.3%		▲32.4%		-		7.4%		+3.7%		+19.8%	
その他	174	0.8%	-	-	-	-	-	-	-	-	174	0.8%	11	0.4%
前年同期 増減率	+0.7%		-		-		-		-		+0.7%		▲49.4%	
合計	11,213	55.4%	4,686	23.2%	3,688	18.2%	642	3.2%	9,016	44.6%	20,230	100.0%	3,087	100.0%
前年同期 増減率	+8.0%		+8.8%		▲13.0%		▲12.5%		▲2.9%		+2.9%		+18.4%	

(※) 営業利益には、セグメント間取引消去および全社費用を含めていない。

	2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	2024年3月期 2Q	2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q
海外売上高比率 (%)	40.4%	43.5%	44.4%	47.2%	44.6%

Ⅱ. 2026年3月期業績予想

2026年3月期 予想

(単位：百万円)

	2025年3月期 実績		2026年3月期 予想		前期比		2026年3月期 公表予想	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	金額	構成比
売上高	41,325	100.0%	40,700	100.0%	▲625	▲1.5%	40,700	100.0%
営業利益	4,807	11.6%	5,000	12.3%	+192	+3.9%	5,000	12.3%
経常利益	5,050	12.2%	5,200	12.8%	+145	+2.9%	5,200	12.8%
当期純利益	3,888	9.4%	3,800	8.8%	▲89	▲2.3%	3,800	8.8%
1株当たり 当期純利益 (円)	198.24	—	193.73	—	▲2.51	▲1.3%	193.73	—
為替 (円)								
USD	158.15		145.00		▲13.15		145.00	
RMB	21.67		20.00		▲1.67		20.00	
EUR	164.86		155.00		▲9.86		155.00	

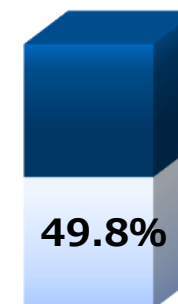
主要セグメント別予想・進捗率

(単位：百万円)

産業用資材

	2025年3月期 実績	2026年3月期 2Q予想	2026年3月期 2Q実績	2026年3月期 予想	進捗率 (%)
売上高	23,740	11,120	11,508	23,100	49.8%
営業利益	219	220	269	850	31.6%
営業利益率	0.9%	2.0%	2.3%	3.7%	-

売上高



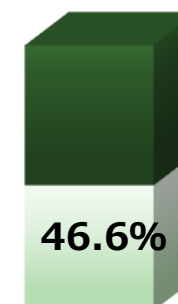
営業利益



引布加工品

	2025年3月期 実績	2026年3月期 2Q予想	2026年3月期 2Q実績	2026年3月期 予想	進捗率 (%)
売上高	3,422	1,690	1,700	3,600	46.6%
営業利益	▲131	▲15	16	50	32.0%
営業利益率	▲3.8%	-	0.9%	1.4%	-

売上高



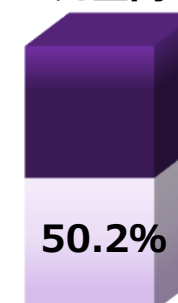
営業利益



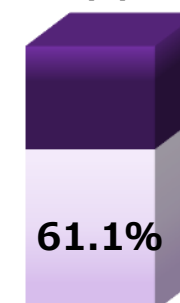
スポーツ用品

	2025年3月期 実績	2026年3月期 2Q予想	2026年3月期 2Q実績	2026年3月期 予想	進捗率 (%)
売上高	13,817	6,910	6,849	13,630	50.2%
営業利益	5,460	2,330	2,791	4,570	61.1%
営業利益率	39.5%	33.7%	40.8%	33.5%	-

売上高



営業利益

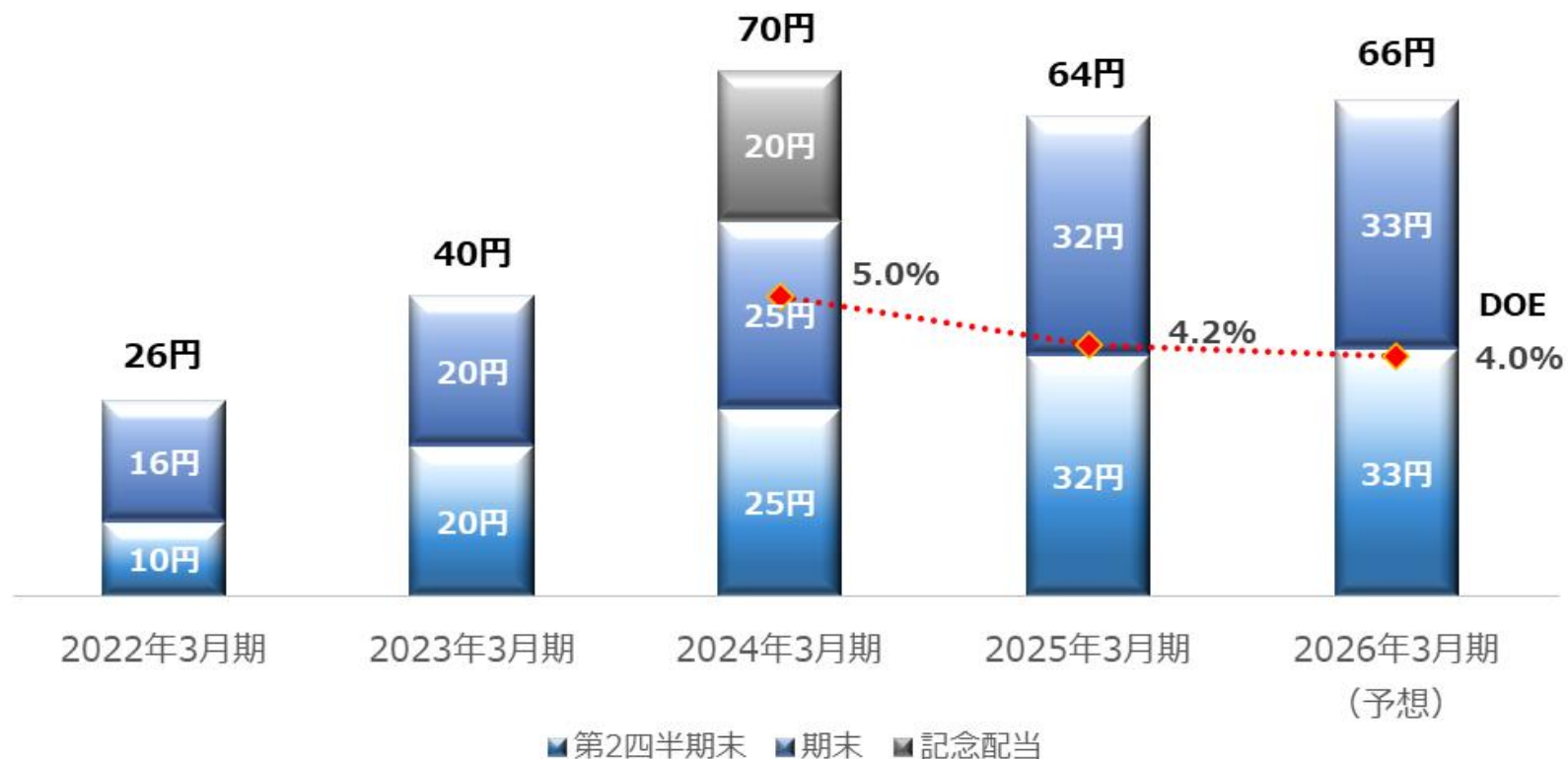


- 年間業績見通しは修正がないため、配当予想も据え置き。前期比では2円増配。

年間配当金 : **上期 33.0円**、**下期 33.0円**、**合計 66.0円**

「株主還元方針」

- i. 株主資本配当率（DOE）4.0%以上を目途とし配当を実施
- ii. 一株当たり年間配当額は、54円を下限とする。
- ii. 自己株式の取得について、財務状況や資本効率、株価の状況等を勘案し、適切な時期に実施



Ⅲ. 足元の活動と今後の方針

2026年3月期-2028年3月期 第7次中期経営計画



変化し続け、「変化」を加速する

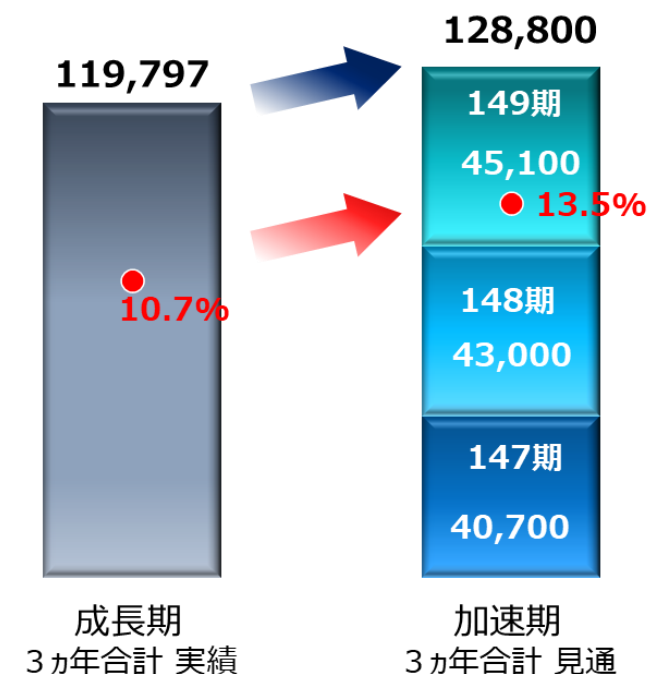
加速期

2026年3月期 – 2028年3月期

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	営業利益率
2026年3月期 (147期) 見通	40,700	5,000	12.3%
2027年3月期 (148期) 見通	43,000	5,800	13.5%
2028年3月期 (149期) 見通	45,100	6,600	14.6%
3年間合計	128,800	17,400	13.5%

(単位：百万円)



第7次中期経営計画 基本方針

稼ぐ力の強化

- ◆ 各事業の資産見直し
 - ◎ 資本コストを意識したROIC経営に注力
 - ◎ 生産設備や生産拠点の統廃合を検討
- ◆ 人的資本への投資
 - ◎ 人材ポートフォリオの実現、人材不足を補う施策
 - ◎ 株式報酬制度の検討
- ◆ DX投資・自動化への投資
 - ◎ DX推進
- ◆ ガバナンス強化への投資
 - ◎ サイバーセキュリティリスクの取り組み継続

新成長戦略

- ◆ 成長分野へのリソース再配分
 - ◎ 医療事業強化
 - ◎ シャフト部門継続強化
- ◆ 新規分野への投資
 - ◎ 他社との協業を含め、新規開発製品の強化
- ◆ R&Dの強化
 - ◎ 先進技術戦略室による推進

サステナビリティ推進

- ◆ ESG経営の推進
 - ◎ 気候変動対応への投資
 - ◎ 循環経済・生物多様性実現に向けた投資

株主還元方針

- ◆ 資本政策
 - ◎ 株主還元方針に基づく株主配当の実施
 - ◎ 自己株式の活用

投資家との コミュニケーション向上

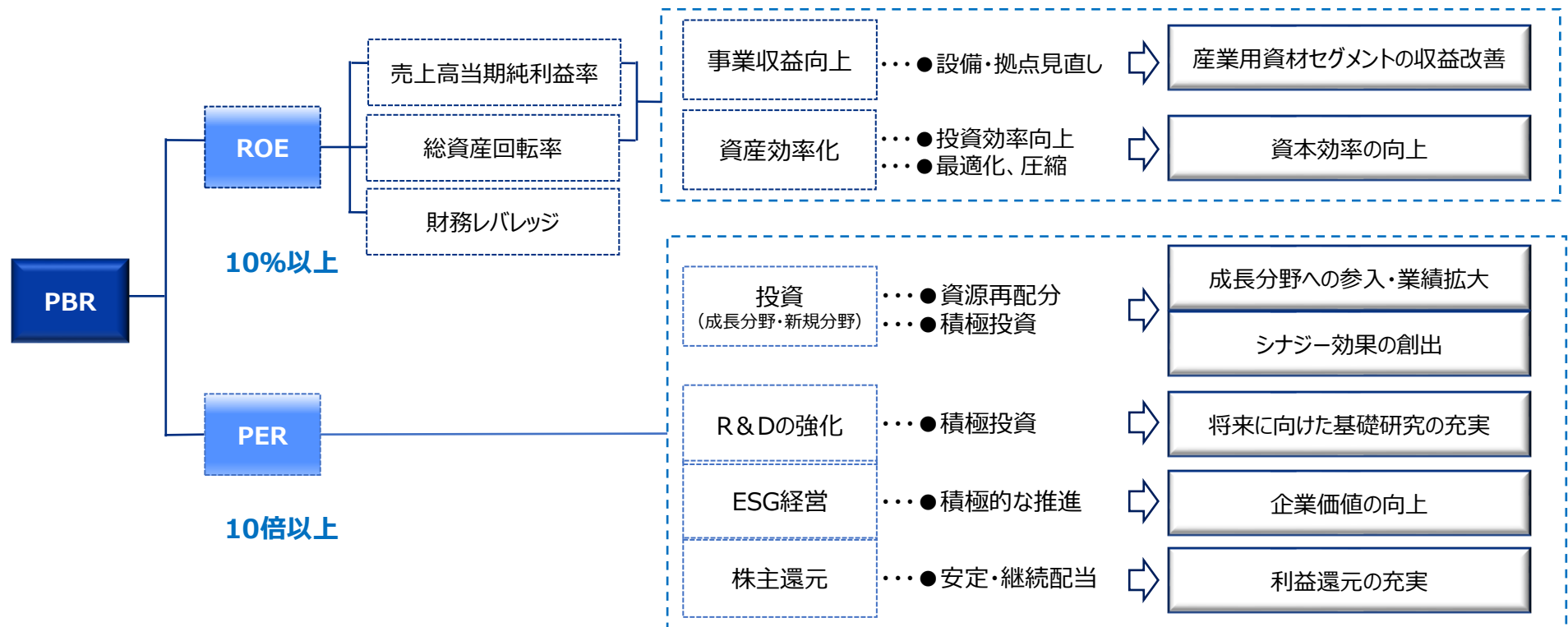
- ◆ IR活動の強化
 - ◎ 広報強化に向けた組織の設置
 - ◎ 海外IRへの取り組み

現状～今後 - 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

	2025年3月期 2Q末	2025年3月末	2026年3月期 2Q末	中計最終年度 (2028年3月期)
PBR	0.7倍	0.8倍	1.0倍	1.0倍以上
ROE	6.2%	11.3%	6.2%	10.0%以上
PER	11.1倍	7.0倍	16.7倍	10.0倍以上



PBR1.0倍以上に向けて



第7次中期経営計画 基本方針

稼ぐ力の強化

- ◆ 各事業の資産見直し
 - ◎ 資本コストを意識したROIC経営に注力
 - ◎ 生産設備や生産拠点の統廃合を検討
- ◆ 人的資本への投資
 - ◎ 人材ポートフォリオの実現、人材不足を補う施策
 - ◎ **株式報酬制度の検討**
- ◆ DX投資・自動化への投資
 - ◎ DX推進
- ◆ ガバナンス強化への投資
 - ◎ サイバーセキュリティリスクの取り組み継続

新成長戦略

- ◆ 成長分野へのリソース再配分
 - ◎ **医療事業強化**
 - ◎ **シャフト部門継続強化**
- ◆ 新規分野への投資
 - ◎ **他社との協業を含め、新規開発製品の強化**
- ◆ R&Dの強化
 - ◎ 先進技術戦略室による推進

サステナビリティ推進

- ◆ ESG経営の推進
 - ◎ **気候変動対応への投資**
 - ◎ **循環経済・生物多様性実現に向けた投資**

株主還元方針

- ◆ 資本政策
 - ◎ 株主還元方針に基づく株主配当の実施
 - ◎ **自己株式の活用**

投資家との コミュニケーション向上

- ◆ IR活動の強化
 - ◎ 広報強化に向けた組織の設置
 - ◎ 海外IRへの取り組み

■ 取締役に対し、信託を用いた株式報酬制度を導入

- 取締役の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にする
- 取締役が株価の変動による利益・リスクを共有する



➤ 処分する株式の数 ... **34,600 株**

■ 従業員インセンティブ・プラン「株式付与ESOP信託」の継続

- 従業員の帰属意識の醸成と経営参画意識を持たせる
- 中長期的な業績向上や株価上昇に対する意識を高める

➤ 処分する株式の数 ... **594,300 株**

QUALIQ

未来を拓くシングルユース部素材

～ QUALIQ 発売のお知らせ ～

QUALIQのシングルユース部材は、厳格な品質管理のもと国内で開発・生産されており、安定調達が可能です。これにより、製造現場の安全性と信頼性を最大限に引き上げ、より効率的で持続可能なバイオ医薬品製造を実現します。

【ブランド名】

～ キュアリック ～

シリコーン (Q) のコンポジット技術で高い品質 (QUALITY) を「つなぐ」!

7月発売開始



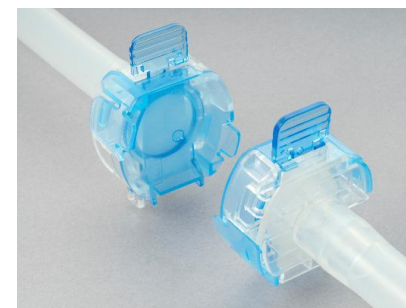
シリコーンチューブ

7月発売開始



ヘルールガasket

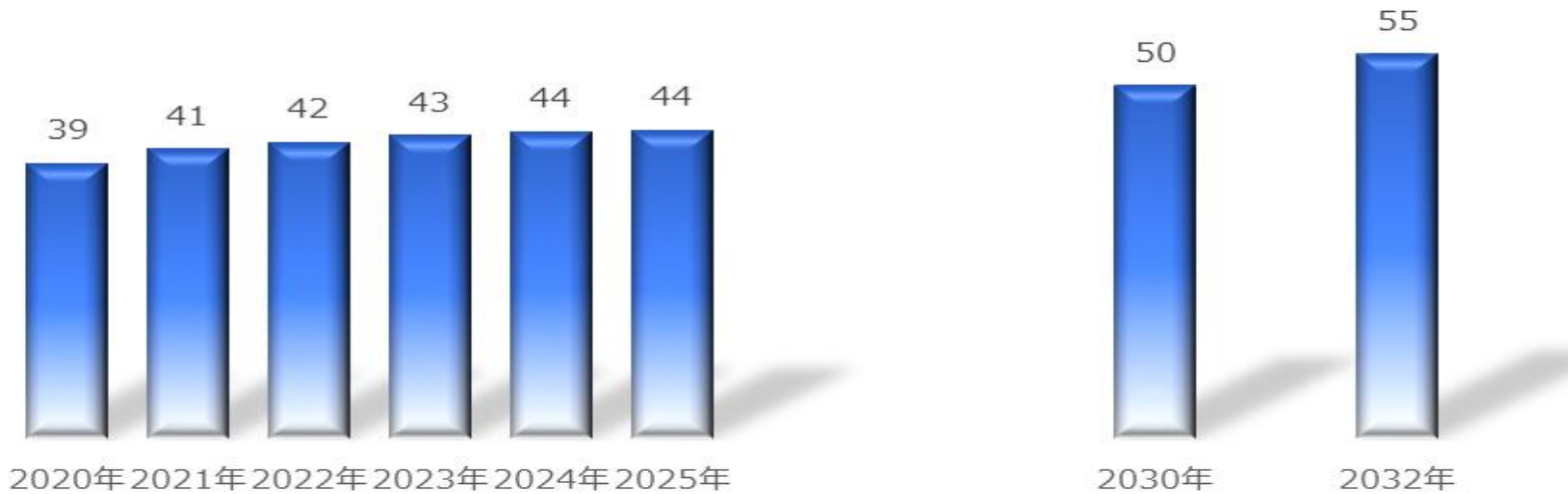
26年発売予定



無菌コネクタ

ゴルフ市場規模

（単位：億米ドル）

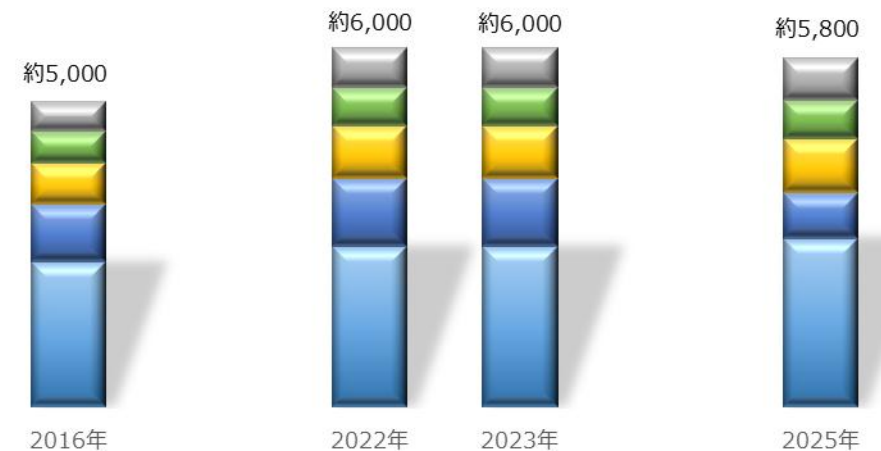


➤ 2020年
コロナ禍、屋外スポーツ需要増加

➤ 2023年以降
市場高値安定、アイアン等の高級クラブ需要の増加
主要先進国で堅調
OEMではないメーカーブランドのクラブ販売が普及

ゴルフ人口 地域別推移

（単位：万人）

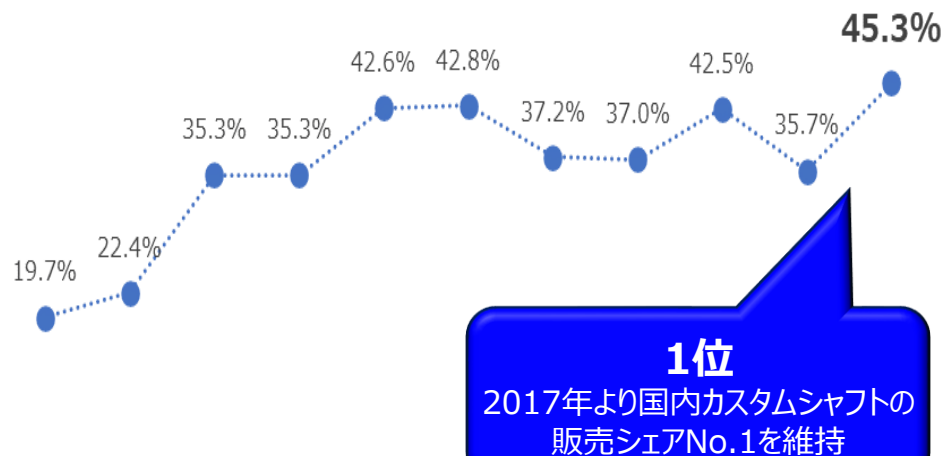


■アメリカ ■日本 ■韓国 ■カナダ ■ヨーロッパ

新成長戦略 - 成長分野へのリソース再配分（スポーツ用品セグメント）

販売シェアおよびツアー選手使用率は継続的に上昇。幅広い層でフジクラシャフトファンを拡大し、No.1ブランドを目指します。

国内カスタムシャフトの販売シェア

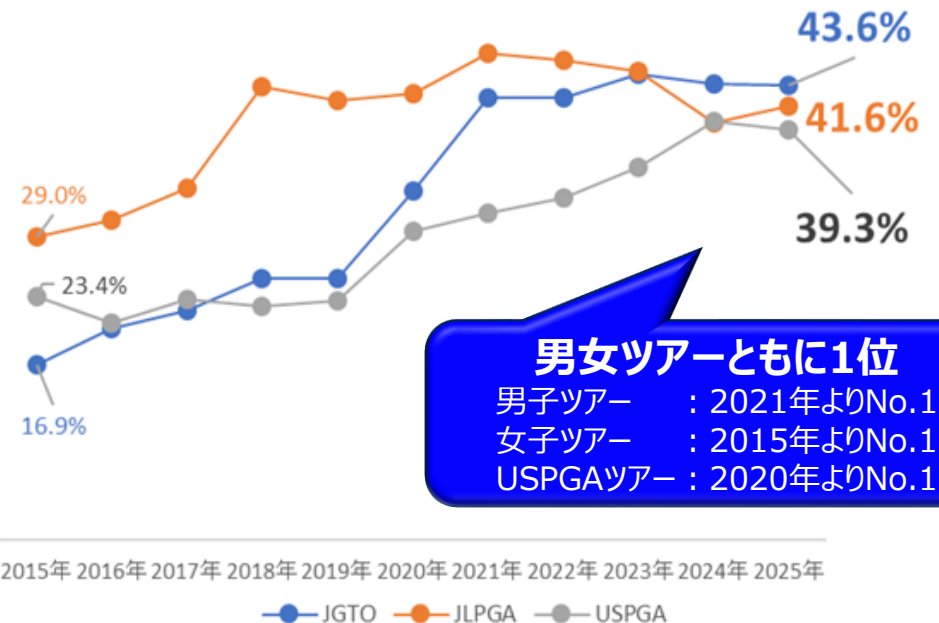


2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年 2021年 2022年 2023年 2024年 2025年

※1 GfKジャパンによる集計データ

※2 カスタムシャフトとは、クラブにオプションで装着される自社ブランド（SPEEDER NXもしくは VENTUS）のシャフトを指す

ツアードライバーシャフト使用率



2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年 2021年 2022年 2023年 2024年 2025年

— JGTO — JLPGA — USPGA

※3 男子ツアー（JGTO）は、Darrell Surveyのデータ

※4 女子ツアー（JLPGA）は、Darrell Surveyのデータと一部自社調べ

※5 アメリカ男子ツアー（USPGA）は、Darrell Surveyのデータ

今後の戦略

- 基盤を強化し、自社ブランド商品の強化に向けて企画と開発を推進
 - ➡ 「VENTUS」「SPEEDER」両ブランドの強化
 - ➡ カーボンアイアン市場の開拓「MCI」「TRAVIL」

株式会社テクサーとの資本業務提携によるスマートビル市場への戦略的参入

成長著しいスマートビルディング市場に向け、革新的センシング技術でイノベーションを起こし、新たな価値提供に挑戦します。

提携の背景と目的

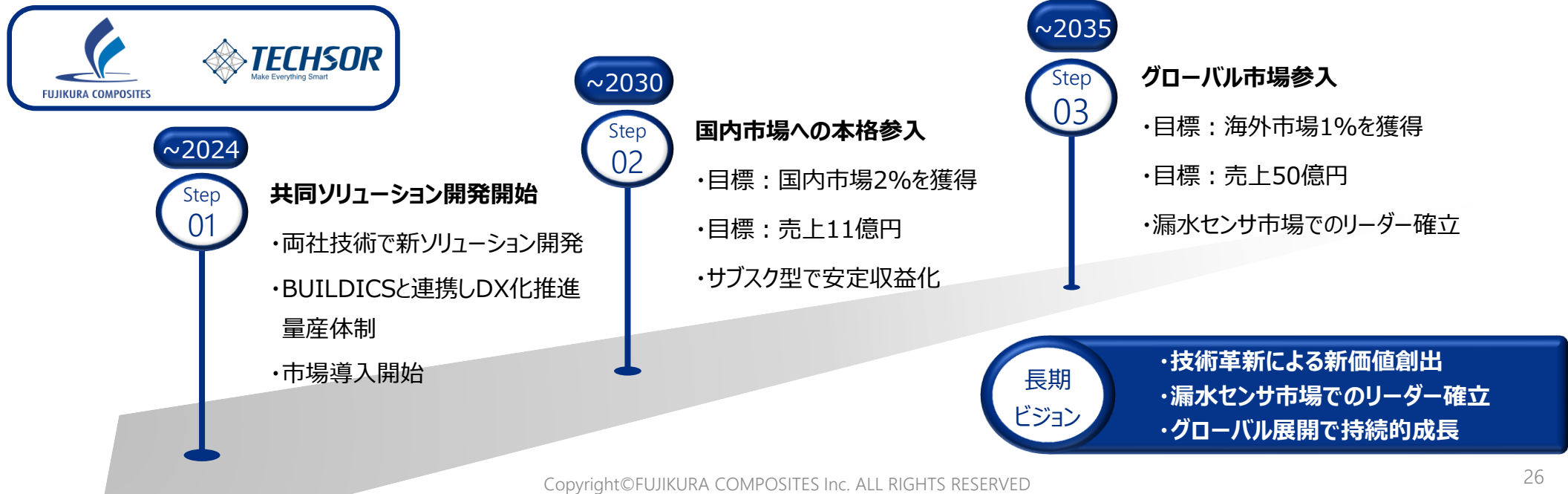
革新的な漏水検知システムを共同開発し、スマートビルディング市場への参入を目指す。

- ・スマートビル市場は今後急成長が期待される注目業域
- ・漏水検知はビル管理における重大課題
- ・当社の「バッテリーレスセンサ技術」と、テクサーのビル管理DXプラットフォームを融合

期待される効果とシナジー

技術シナジーによってビル管理のDX化を推進

- ・スマートビルディング市場への早期参入と新規収益源獲得
- ・老朽施設・公共インフラの安全管理レベル向上に寄与
- ・成長市場に向けた戦略的投資による将来性のある事業展開
- ・ESG・SDGsへの貢献を通じた中長期視点での企業価値向上



■ 2025年11月10日の取締役会において、自己株式の消却を決議

自己株式の消却に関するお知らせ (会社法第178条の規定に基づく自己株式の消却)

当社は、2025年11月10日の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

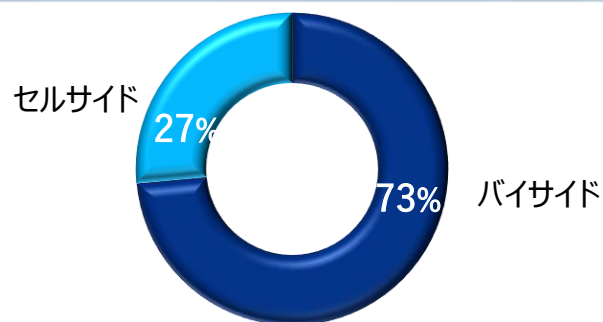
記

- | | |
|--------------|--|
| 1. 消却する株式の種類 | 当社普通株式 |
| 2. 消却する株式の数 | 3,371,241 株
消却前の発行済株式総数に対する割合 14.38% |
| 3. 消却予定日 | 2025 年 11 月 28 日 |
| 4. 消却の理由 | 当社は、機動的な資本戦略に備えて自己株式を取得し保有しておりますが、将来の株式の希薄化懸念を払拭すること、流通株式比率の向上を図ることを目的として、自己株式の全てを消却いたします。 |

2026年3月期中間期の面談の状況

種別	回数	役員の主な対応者
決算説明会	2回	代表取締役社長執行役員、 取締役管理本部統括、取締役事業部統括
個別面談	34回	取締役管理本部統括、管理本部長

面談した株主、投資家の概要



経営陣へのフィードバック状況

種別	頻度
IR活動状況	半期ごと
投資家との対話の内容	面談実施時

主なテーマや投資家の関心事項

- 利益率改善についての取組み
- 事業環境の動向、当社の認識
- 各事業における特性
- PBR1倍超に向けての施策
- 資本政策

株主・投資家との対話に基づく主な対応

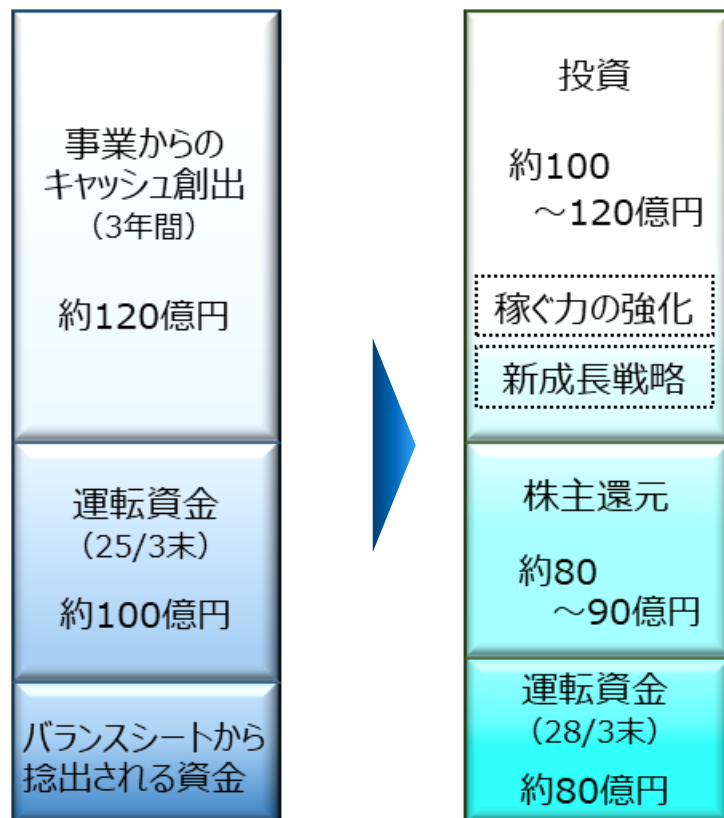
- PBR1倍超の施策について進捗を教えてください
⇒本資料にて進捗を開示
- 地域別の売上高が分かりにくい
⇒決算短信への記載を追加、決算説明会資料にも記載を追加
- 計画に対しての実績はどのようなになったのか
⇒本資料にて進捗を開示

ESG強化 - 2025年度指標

		2024年度 実績	2025年度 指標	実施事項
環境	気候変動	2013年度比：22.5%削減	2013年度比：46%削減	<ul style="list-style-type: none"> ●全てのエネルギー使用の合理化推進、GHG排出量削減 ●製造プロセスの効率化、各種省エネ活動の対策、エネルギー消費の「見える化」
	循環経済	最終処分量：8.6 t	最終処分量：6.2 t	廃棄物の分別や再生利用処理による資源の循環利用の促進
		最終処分率：0.92%	最終処分率：1%以下	
		廃プラ類再資源化率：98%	廃プラ類再資源化率：85%以上	
	生物多様性	環境負荷物質関連情報の適時更新	環境負荷物質の使用停止	製品に含まれる化学物質管理の徹底、環境に配慮した製品の提供
		鎮魂復興支援植樹祭への参加	植樹活動の積極参加	生産活動を行っている地域と協力して、環境保全・生物多様性の活動を推進
社会	ダイバーシティ 人権 人材育成	女性採用比率：37.5%	女性採用比率：30%	<ul style="list-style-type: none"> ●事業環境の変化に対応した、目指す人材ポートフォリオの実現 ●エンゲージメント向上に対する取り組みの強化 ●評価制度の見直しを行い、新たな分配制度として従業員株式報酬制度を導入 ●従業員のキャリア開発支援に向け、教育訓練や海外経験の機会提供 ●障がい者雇用制度の拡充 ●従業員持株会奨励金の増額 ●働き方改革の推進およびオフィス機能の強化
		新卒者の女性採用比率：33.3%	新卒者の女性採用比率：30%	
		管理職に占める女性比率：2%	管理職に占める女性比率：10%	
		男性社員の育児休業取得率：17.6%	男性社員の育児休業取得率：40%	
		障がい者雇用率：2.6%	障がい者雇用率：2.5%	
		労働災害件数：2 件	労働災害件数：0 件	
ガバナンス	ガバナンスとリスク	<ul style="list-style-type: none"> ●リスクマネジメント委員会を中心にリスク洗い出しの見直し実施 ●情報セキュリティ推進室の設置 	取締役株式報酬制度を導入	業務の効率性・透明性・公正性を高めるとともに、皆様の信頼に応えつつ、企業価値の持続的な向上を掲げ、コーポレート・ガバナンス体制の強化に努める

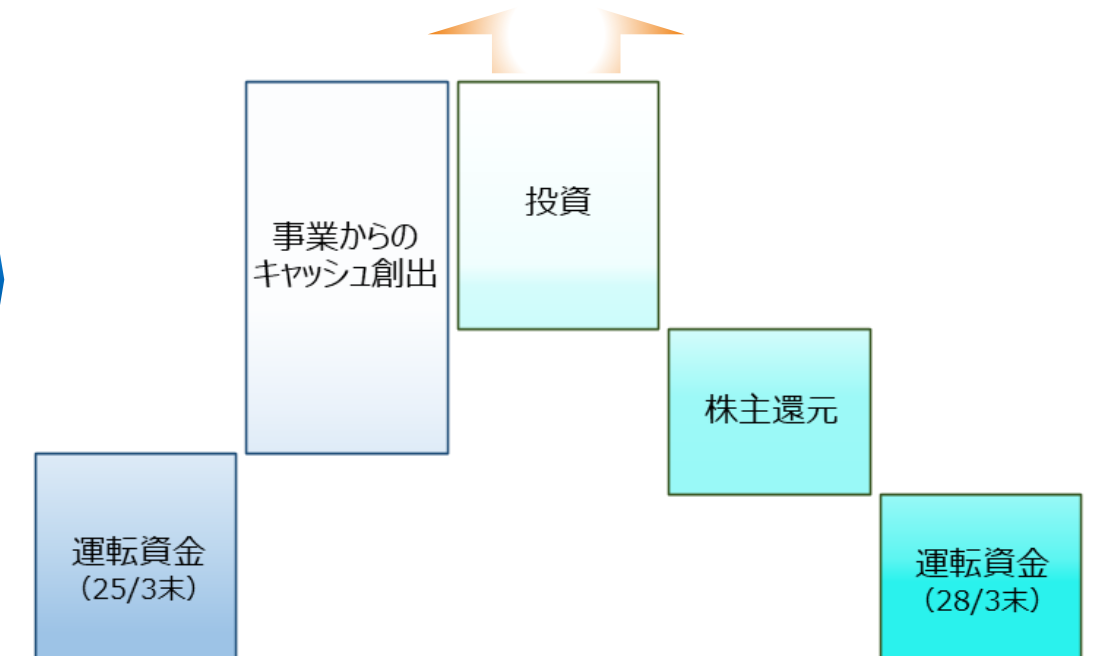
- 生産設備の効率化や生産拠点の統廃合等、事業最適化により、キャッシュ創出力の向上
- 成長分野、新規分野への積極的な投資
- 投資機会に応じた資金調達、資本構成適正化に向けた施策は状況等を勘案し、機動的に実施

第7次中期経営計画（3年間） キャッシュアロケーション予想



キャッシュフロー累計

既存事業の収益改善、新領域の拡大に向けた
戦略的投資の実行



IV. Appendix

杭州藤倉橡膠有限公司（杭州藤倉）

中国浙江省所在の工業用ゴム製品の製造販売拠点、販売のための分公司を上海と広州に有する。原材料から金型の開発も担い中国地域のR&D拠点でもある。1996年3月18日設立。資本金40,036千元。

安吉藤倉橡膠有限公司（安吉藤倉）

中国浙江省所在の工業用ゴム製品の製造販売拠点。2016年7月第二工場竣工、同年10月より稼働している。自動車部品用に最新鋭の自動化成形加工設備を導入している。2011年2月28日設立。資本金149,465千元。

FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, INC. (FCH)

ベトナム北部ハイフォン市に所在の産業用資材、引布加工品およびゴルフ用カーボンシャフトの製造拠点。2014年6月に第二工場を竣工、2017年4月には検査棟が竣工され、さらに工業用品部門の拡大を予定している。2002年9月18日設立。資本金2,947千米ドル。

IER Fujikura, Inc. (IFI)

米国オハイオ州所在の工業用ゴム製品の製造販売拠点。北米での営業を強化すると同時に、自動車分野以外の市場開拓を進めている。1958年創業のIER社を2006年3月に買収し、同年5月24日設立。資本金3,800千米ドル。

Fujikura Composite America, Inc. (FCA)

米国カリフォルニア州カールスバッド所在のゴルフ用カーボンシャフトの開発および販売拠点。最大のゴルフ市場である米国において、ブランディング戦略の推進と更なるシェアの確保に邁進している。1994年7月14日設立。資本金4,000千米ドル。

株式会社キャラバン

1952年に製造開始した軽登山用「キャラバンシューズ」をはじめとして、登山、アウトドア用品の開発製造販売および輸入販売を行っている。1954年6月19日設立。資本金156百万円。

1901年 10月	藤倉電線護謨合名会社を創立、ゴム引布の製造を開始
1910年 3月	電線部門とゴム部門を分離、藤倉合名会社防水布製造所を設立
1920年 4月	株式会社に改め藤倉工業株式会社を設立
1948年 10月	藤倉ゴム工業株式会社に商号変更
1949年 5月	東京証券取引所に上場
1953年 2月	藤栄運輸株式会社（現連結子会社）を設立
1959年 4月	大阪営業所（現大阪支店）を開設
1969年 4月	福島県原町市（現南相馬市）に原町工場開設
1971年 9月	埼玉県岩槻市（現さいたま市岩槻区）に岩槻工場開設
1972年 10月	茨城県勝田市（現ひたちなか市）に勝田出張所（現勝田営業所）開設
1985年 6月	藤栄産業株式会社を設立
1991年 4月	株式会社キャラバン（現連結子会社）を子会社化
1994年 7月	米国カリフォルニア州ビスタ市にFujikura Composite America, Inc.（現連結子会社）を設立
1996年 5月	中国浙江省杭州市に杭州藤倉橡膠有限公司（現連結子会社）を設立
2000年 11月	名古屋営業所を開設
2002年 9月	ベトナムハイフォン市にFUJIKURA COMPOSITE HAIPHONG, Inc.（現連結子会社）を設立
2006年 5月	米国オハイオ州のIER Fujikura, Inc.（現連結子会社）を子会社化
2010年 11月	福島県南相馬市に小高工場開設
2011年 1月	岩槻工場内にエンジニアリングセンター開設
2011年 2月	中国浙江省安吉経済開発区に安吉藤倉橡膠有限公司（現連結子会社）を設立
2011年 9月	本社事業所及びスポーツ用品営業部を東京都江東区へ移転
2012年 3月	韓国ソウル市にFujikura Composite Korea, Co., Ltd.を設立
2012年 4月	埼玉県加須市に加須工場開設
2017年 4月	FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, Inc.の検査棟を竣工
2019年 4月	藤倉コンポジット株式会社に商号変更
2020年 4月	藤栄産業株式会社を吸収合併 原町工場内にLIM棟開設
2022年 6月	有限会社テクノロジーサービスを子会社化
2024年 9月	東日本大震災で被災した、小高工場を再稼働
2024年 11月	本社事業所を東京都品川区西五反田へ移転

国内拠点 ～国内製造4拠点～

【営業拠点】

- ① 本社
- ② 大阪支店
- ③ 名古屋営業所
- ④ 勝田営業所

【生産拠点】

- ① 岩槻工場（埼玉県）
- ② 原町工場（福島県）
- ③ 小高工場（福島県）
- ④ 加須工場（埼玉県）



● 生産拠点
● 営業拠点

本社



東京都品川区西五反田8-4-13
五反田JPビルディング 4F

グローバル拠点 ～米国、中国、ベトナムを中心に計7社～

● 生産拠点

● 販売拠点

Fujikura Composites Europe B.V.

Fujikura Composites Korea, Co., Ltd.

安吉藤倉橡膠有限公司



杭州藤倉橡膠有限公司



FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, Inc.



Fujikura Composite America, Inc.



IER Fujikura, Inc.



- 米国法人 : 2社
- オランダ法人 : 1社
- 中国法人 : 2社
- 韓国法人 : 1社
- ベトナム法人 : 1社 計7社

■ 岩槻工場



設立 : 1971年9月
所在地 : 埼玉県さいたま市岩槻区
従業員数 : 375名 (2025年3月末現在)
敷地面積 : 49,088㎡
延床面積 : 34,950㎡
主要製品 : 電気材料、ゴム引布、加工品

■ 岩槻工場EC (エンジニアリングセンター)



設立 : 2011年1月
概要 : 研究開発

■ 原町工場



設立 : 1969年4月
所在地 : 福島県南相馬市
従業員数 : 298名 (2025年3月末現在)
敷地面積 : 47,981㎡
延床面積 : 18,752㎡
主要製品 : 工業用ゴム製品、医療用品

■ 原町工場 LIM棟



設
概

立：2020年4月

要：医療用ゴム製品を含むLIM製品の製造

■ 小高工場



設
所
従
敷
延
主

在

立：2010年11月

地：福島県南相馬市

従業員数：62名（2025年3月末現在）

敷地面積：137,682m²

延床面積：9,834m²

主要製品：制御機器、スポーツ用品

■ 加須工場



設
所
従
敷
延
主

在

立：2012年4月

地：埼玉県加須市

従業員数：132名（2025年3月末現在）

敷地面積：28,840m²

延床面積：16,343m²

主要製品：工業用ゴム製品、混練り

米国法人



■ IER Fujikura, Inc.

設立：2006年5月
所在地：オハイオ州
従業員数：87名（2025年3月末現在）
事業内容：工業用ゴム製品の製造販売



■ Fujikura Composite America, Inc.

設立：1994年4月
所在地：カリフォルニア州
従業員数：33名（2025年3月末現在）
事業内容：ゴルフ用カーボンシャフトの開発及び販売

中国法人



■ 杭州藤倉橡膠有限公司

設立：1996年3月
所在地：浙江省杭州市
従業員数：337名（2025年3月末現在）
事業内容：工業用ゴム製品、制御機器の製造販売
支店：広州市



■ 安吉藤倉橡膠有限公司

設立：2012年2月
所在地：浙江省湖州市
従業員数：272名（2025年3月末現在）
事業内容：工業用ゴム製品の製造販売
支店：大連市

ベトナム法人



■ FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, Inc.

設立：2002年9月
所在地：ハイフォン市
従業員数：794名（2025年3月末現在）
事業内容：産業用資材、引布加工品及び
ゴルフ用カーボンシャフトの製造

【注意事項】

資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。

そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあり得ます。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

藤倉コンポジット株式会社
人事総務部 総務広報チーム
TEL：03-5747-9444 FAX：03-5747-9781